

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4495
24年11月5日(火)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

主権者の正しい選択

おはようございます。

郵政ユニオン中央本部
前中執の上関英穂さん
(広島)が十一月一日に
病気で永眠されました。
六五歳という若さであり、
残念極まりなく、支部も
故人をしのび、弔電を打
ち、弔意を表しました。

「病氣療養」という話を
聞き、先月半ばに絵葉書
でお見舞い状を出した。
絵葉書はユニオン長崎中
郵支部の仲間で、労働契
約法二〇条の裁判の原告



団長である原田芳博さん
手書きの「明治期の長崎
郵便局」であった。
二〇日に、これが「届
いた」と上関さんから返
信のLINEがあり「お
久しぶりです。暖かい絵
葉書メッセージをいただ
き、感激しています。昔
の長崎郵便局の絵、とて
も気に入って、額縁を買
つてきて、家に飾りまし
た・・・」とあり、「よかつ
た」と思った矢先の訃報

に驚き追悼記を書いてい
ます。心より、哀悼の言
葉をおくりします。やすら
かに。合掌。

*** **

十月二十七日に行われ
た第五十回総選挙では、
自公の与党が過半数を失
い、また「ゆ党」といわ
れた維新も減り、立憲と
民主、れいわ
新選組が
増えた。



政権交代
が最大の政
治改革とい
う選挙前の
雰囲気だったが、立憲の
意気が上がらず、喜び感
もなく、野党に投票した
人(国民)たちもいささ
か拍子抜けの感じだ。

この現状のキャステイ
ングを握った国民民主の
自公の与党にすり寄り、
意外な結果があるからだ。
「手取りが上がるいい政
策ならば協調する」とい
う話らしい。裏切りでは
ない、石破の延命。これ
がこの選挙の表の総括だ
ろう。

この選挙はもう一つの
大きな結果を残した。産
経オンラインでは「自公
維新でも改憲に必要な国
会三分の二に届かない厳
しい結果」がある。裏を
返せば、護憲派は大きい
勝利なのだ。

これは安倍派の落選が
大きい。派には選挙前に
五十七人いたが二十二
人に減り、影響力は落ち
る。なぜ減ったのか。
一は裏金議員が圧倒
的に多かつたし、また
統一教会関連議員だ
つたから。国民はし
っかり見ていた。これ
は正しい判断だ。

安部派は極右だとこれ
までも批判してきたが、
自民・安部一強の中、選
挙では野党は勝てなかつ
た。今回も必ずしも突然
の解散で、野党の選挙協
力ができず、野党乱立気
味のなか、自公と維新に
だけに逆風が吹いた。お
ごるもの久しからず。次
は来年の七月の参議院選
挙だ。次も頑張ろう。

ところで、アメリカの
経済学者でノーベル賞を
受けたクーグルマン教授

は安倍晋三について、ニ
ューヨークタイムズ誌上
で「彼(安倍)はナショ
ナリストであり第二次世
界大戦時の虐殺否定論者
であり、経済政策に対し
てはほとんど関心がな
い」として、いま、この
安部ノミクスを批判し、
政治的・反動的な歴史認
識の人とする。安部派は
戦前の歴史を正当化し、
憲法を昔に変えようとし
る人たちだ。復活NO。

あるエツ
セーに「今
は信じられ
ないことで
すが、一九
四五(昭和
二〇)年の
日本人男性
の平均寿命は二三・九歳
でした。そんな時代だか
ら、「戦地で戦士たちは戦
つて死ぬことだ」と先生
から聞かされていました。
ところがあの八月十五日
を境になにかにもが変
わりました。この「解放
感」というぼんやりとし
た気持ちのシヤンとなつ
たのは、敗戦の翌年、日
本国憲法が公布されたと
きでした・・・」とある。



この日が昭和二十一年
十一月三日の憲法公布日
である。いまこの日は文
化の日の祝日だが、戦前
は明治天皇の誕生日で天
長節の祝日だった。この
日に公布されたことが、
憲法が一番大事な「骨」
なのだ。

新憲法の一番は国民主
権である。国民こそが国
の主権者であると宣言す
る。日本史上初の民定憲
法なのだ。明治の
帝国憲法の主権
者である天皇を
神から人間にお
ろし、権力者から
象徴という存在
にしたことが、憲
法の最大の特徴
だ。

安部派がいう「戦前が
正しい」という改憲論者
の誤りⅡ時代錯誤が国際
的にも認められないこと
を、日本でもこの第五十
回総選挙は意思表示した
のだ。国民Ⅱ主権者が主
権を発動し、歴史を曲解
する政治をただす。これ
が現在だ。

●写真は明治期の長崎郵便
局、前は海だった。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員希望者全員に正社員化を。めげず、均等待遇、なぐさみ差別。ユニオンは労働法裁判に勝利するぞ！

